

働く女性・大学生編 ～若者や女性に選ばれる地域になるために～



令和7年度第1回地方創生ストリートミーティング 開催レポート



若者世代の県外への転出が増加する中、市内に住み続けたい・働きたいと思ってもらえるような、“まち”や“職場”について、市内で勤務されている女性の方と市内大学に通われている学生にご意見をいただきました。

■ 開催概要

日 時：2025年10月22日(水) 18:30-19:30

会 場：鳥取市役所本庁舎 7階 展望ロビー

参加者：市長、鳥取市内で勤務されている方3名、鳥取市内大学に通われている学生の方3名、男女共同参画課長

【テーマ1】鳥取市にあったらいいなと思うもの

【施設】

- ・ 雨や暑くて外に出られない日でも、こどもたちが遊べる施設が欲しい。例えば、1階が屋根付きの広場、2階がカフェ併設の屋内遊技場や、年中利用できる大型のプール施設（ウォータースライダーや流れるプール等）などがあると、こどもたちが楽しめる場所になるのではないか。
 - ・ 他県には中心にみんなが集まるような場所があるため、鳥取駅にもそのような場所ができると人が集まって賑わいが創出されるのではないか。
 - ・ 映画館やアミューズメント施設などがほしい。鳥取の自然や落ち着いて過ごせる環境のような鳥取の良さをいかしつつ、若者が遊べる施設があつたらうれしい。
 - ・ 「この施設が好き」「この公園が好き」などといったものを作っていて、一度鳥取を出たとしても、鳥取ってやっぱりいいところだなと思い帰ってくるきっかけになるのではないか。
 - ・ 鳥取市は人との関わり合いや、友達、人が集う場所、目に見えない人とのつながりがある。その上で、楽しい施設や人と関わることのできる場所があればいいと思う。
- ▶ 天候が悪い時に、こどもが遊べる空間が欲しいという声があるが、実はそうした施設は多くある。必要な施設等もあるかもしれないが、鳥取にもそういった場所はあると思うので、情報発信にしっかり取り組みたい。
- ▶ アミューズメント施設としては、シネコンなど鳥取に進出したいという事業者もある。現在、駅の北側はリデザインを進めている。また、汽車やバスなど駅で待つ時間を過ごせる空間を求める声もあり、そのような空間・施設づくりも検討を進めている。
- ▶ 若い方が県外に出られたとしても、また戻ってきたいと思えるまちづくりをしていきたい。

【環境】

- ・ 鳥取駅を降りた時に暗い印象があるため、夜でも明るい環境にしてほしい。
 - ・ 鹿野城跡の桜や紅葉がきれいだと聞いた。地元にいると慣れてしまうとは思うが、きれいだと思うものをアピールして、戻ってきたいと思える場所を作っていくとよいのではないか。
 - ・ 車をもたない学生にとっては、行きやすさが重要。狭い範囲に色々あれば行きやすいと思う。
- ▶ 鳥取駅周辺が暗いという声については、近いうちに照明の改善を図る予定。
- ▶ 鳥取市は自然が豊かで、鹿野城跡や復元が進む鳥取城跡など、歴史的にも魅力多いところがたくさんある。仁風閣も整備を進め、多くの皆さんに楽しんでいただけるようにしていきたい。

【発信力】

- PRが足りていないと感じることがある。例えば、お店なども素敵な企画はたくさんあるのに、発信力が弱いことがあるため、そのような情報を知れる環境がもっとあったらいい。
 - お店でもSNS等での発信はあるが、それだけでは伝わることに限りがある。市と連携して発信していくことで、いろんな人に伝わるのではないか。
 - 鳥取市から発信をするにも、もともとの繋がりがないと難しい面があるため、まずは交流が大事。発信力を持っている方との交流会をするのも一つの方法。
- ☞ もっと積極的に情報を出していくことで、「こういったところがあるんだ」と改めて気づいていただけの人が増えるのではないか。

【子どもの夢を広げる機会の創出】

- 鳥取でも一流のことが体験できるイベントがあればいいなと思う（プロ選手の試合の開催、有名店の期間限定出店、有名ホテルの開業など）。子どもが実際に経験することで、将来の夢を描きやすくなる機会がもっと増えて欲しい。
- 子どもがいろんな職業を体験できるのはよい。鳥取の企業について、子どもの時から知ることで、大学などで県外に出ても、鳥取市に戻ってきたいと思う人が増えるのではないか。

【テーマ 2】理想の働き方・職場環境

【参加者の職場環境】

(学生)

- 就職するうえでは、仕事とプライベートを分けて充実させたいため福利厚生を重視している。実際にどのような環境が整っているか、社会人の方に聞きたい。

(社会人)

- 育休・産休がしっかりとれ、子どもが体調を崩したときの特別休暇や、住宅手当、子育て・介護支援についても休暇や手当がある。
- 生理痛や不妊治療において、有給休暇を使わずに休暇がとれるウェルネス休暇が新設された。有給休暇については、使わなかった分を次年度へ積み立て、必要な時に使える制度もある。
- 1年目から退職金が出る制度や、子どもが生まれた時には男女問わず使える特別休暇もあり、環境が整っていると感じる。

(学生)

- 休みがとりやすい環境が整ったことで、生活面などで暮らしやすさを実感されているか。

(社会人)

- 月に1回は有休を使うと決めており、部署内でも休暇取得が推奨されている。
- 連休に合わせて休みをとることで、社会人になっても県外旅行など遠出ができる。
- 部署内でルールがあるわけではないが、月1回は休むと決めている。それでも仕事はこなせており、給料面で不安があることもないため、皆が比較的自由に休みをとれる環境が整っている。

(社会人)

- 市役所の庁舎がきれいになったことで、仕事に対するモチベーションなど変化はあったか。

(市役所職員)

- 前の庁舎は古く隙間風があり、夏は暑く冬は寒いといった環境だったが、新庁舎は、温度面に関してすごく働きやすくなった。また、お手洗いがきれいになったこともすごく良い。
- 前の庁舎に比べ、広々としており気持ちもゆったりして仕事ができる。また以前は庁舎が分かれていて不便なところもあったが、今は1つに統合され、仕事の効率も上がったと感じている。

(学生)

- インターンなどをしているなかで、企業がきれいだと、ここで働いてみたいという気持ちにもなる。モチベーションや気分も上がったりするので、そうした点も就職先を選ぶ際に重視している。

よく言われるのは、ワークライフバランス。健康を維持して人生を楽しみ、プライベートを充実させることが大切だという考え方が浸透してきた。

仕事は生きがい・やりがいをもってできるように、プライベートは充実して過ごせるように、そしてまたリフレッシュして仕事ができることが必要。

- 福利厚生も以前と比べかなり充実してきた。制度はあるが、取りづらい雰囲気にならないようにしないといけない。
- 庁舎については、かつて7か所に分散していたこともあり、職員の移動にも負担があった。また、暑さや寒さといった環境面の課題もあった。職場環境を改善することは、働きやすさを向上させるだけでなく、業務効率の向上や市民サービスの充実にもつながる面でとても大切。

【人間関係について】

(学生)

- 働く上では人間関係が大切だと感じている。上司がフレンドリーに接してくれたり、同世代の人と気軽に話せたりするような環境が働くうえで大切なのではないかと思う。実際に働いていて、どのような感じか聞きたい。

(社会人)

- 職場の雰囲気や人間関係は大事。労務改善アンケートを実施しており、人間関係のことだけではなく、企業として頑張ってほしいことや不安を抱えていることなどを相談できる。安全衛生委員会といった形で職員の意見を聞く仕組みがある。
- 匿名で意見を言える意見箱のようなネット上の場がある。また、所属長が月に一度みんなが集まる場を設け、上司に意見が言いやすい環境がある。
- 匿名で下から上を評価できる360度評価制度が導入されている。
- 人間関係が合わない場合でも、人事異動があるので状況が変わることもある。
- アルバイトの場合、コミュニティが小さく関わる人が限られてしまう傾向があると思うが、社員として勤めるとコミュニティも大きくなって、柔軟な環境になりやすいと思う。

【働き方と支援制度について】

- 子どもの体調が万全でない状態でも、安心して病児・病後児保育に預けられる環境が整っていれば、お父さんやお母さんも安心して働けるのではないか。
 - 教育実習の際に、教員不足と聞いた。人手が不足すると休みにくいと思う。職業によって状況が違うのは仕方ないが、休みやすさの面でも人手の確保は重要だと感じた。
 - 1つの企業、1つの仕事だけではなく、副業やダブルワークができる働き方がよい。資格をとったが使っていない人も多くいると思うため、その方々がダブルワークができるような制度があればいい。
 - 資格を持っていても、仕事とプライベートの両立が難しくてやめている方もいる。一度離職しても、再度働きたいと思えるような、現場に戻るためのハードルを下げる仕組みがあれば良い。
- 病児・病後児保育制度については、必要な方々が安心して利用できるよう、さらに充実させていくたい。
- 公務員でも副業を認める動きが出てきた。これから人口減少・少子化が進む中で、本業だけでなく資格や特技をいかす、また自己実現ができるようにしていく必要もある。

【地元で働くことの魅力】

(学生)

- 就職するときにいろいろな選択肢があったと思うが、なぜ鳥取市で働くことにしたのか。

(社会人)

- 大学で東京に出ていたが、帰ってきた理由の一つは実家があるから。東京で休日を過ごすイメージはできたが、自分が働いているイメージはあまりできなかった。鳥取にいると、鳥取のために働きたいという気持ちをもって働くことができるため、帰ってきて良かったと感じる。
- 地元で働くことで親を安心させたいという思いがあった。高校生の時には鳥取の良さをあまり実感できなかったが、実際に働き、友達と遊んだりする中で、地元ってこんなに素敵なところなんだとわかった。また、仕事を通じてこのまちに貢献できていると実感できてよかったです。
- 鳥取も好きだし、鳥取の人も好きで帰ってきた。地元で働くと、育児をするときにも自分の親に頼ることができる。そのようなところが地元ならではの強み。

(おわりに)

人口減少や高齢化が進むなか、地方創生の取組を一層進めていくことが求められている。本日のストリートミーティングでは、「将来の鳥取市をより良くしていくためにはどうすればよいか」という視点で、皆さんから忌憚のないご意見をいただいた。みんなで考えると明るい未来が切り拓いていけると考えている。引き続き、さまざまな機会を通じて皆さんからのご意見を伺いながら、まちづくりを進めていきたい。